

平成30年度 ウェスタン健康科学大学薬学部研修報告

近藤優樹、森田海聖、亀山実希、渡邊裕菜

(グループ1)

2019年2月11日～25日で第2回のアメリカ研修をロサンゼルスウェスタン大学(Western University of Health Science、以下WU)の薬学部で行った。ウェスタン大学の先生達によるアメリカでの薬剤師制度や、保険制度などを学んだり、薬局(WU Patient Care Center)や病院(Citrus Valley Medical Center、Casa Colina Medical Center)、ドラッグストア(CVS pharmacy)を見学した。



・病院(Citrus Valley Medical Center、Casa Colina Medical Center)

薬剤部と病院内部の両方を見学した。どちらの病院も機械化が進み、患者に間違えた薬の処方、投与をしないように薬剤師の指紋などで管理されていた。薬剤の保存方法や無菌調剤室などは日本と同様であった。アメリカの錠剤の調剤ではボトルに詰めて患者に渡す方法が一般的だが、病院では独自の方法で一錠ずつ分けていた。



・ドラッグストア(CVS pharmacy)

調剤併設型のドラッグストアを見学した。日本では医療用医薬品である薬がOTCで販売されていたり、ピルや禁煙薬など薬剤師の判断で売ることができるOTC薬があった。私たちの班は解熱鎮痛薬について調べ、プレゼンテーションを行った。



・ファイナルプレゼンテーション

私たちの班は、日本とアメリカの薬局薬剤師の違いについてプレゼンテーションをした。テーマを選んだ理由は、処方箋を受け取ってから患者に服薬指導するまでの流れが日本とアメリカでは大きく異なっており、WUの学生に、日本についても知ってほしいと思ったためである。プレゼンテーションは発表とは違い、聞き手に質問を投げかけながら進行していくのが大事であると知ったため、日本ならではの一包化機械などを紹介し、これは何でしょう？とWUの学生に質問をしながら行った。また、お薬手帳のレプリカを作り、実際にWUの学生にどのようなものかを見てもらうなども工夫として行った。プレゼンテーション終盤は、日本とアメリカそれぞれの薬剤師が何を大切に思って日々の業務を行っているのかを私たちに考え、日本は「Patient First」、アメリカは「Medical Care」という結論になった。日本では一人の患者にかかる時間が長く、患者を中心とした業務や制度が



多いと研修でわかった。アメリカは保険の種類などによって病院に行くことが困難なため、薬局薬剤師ができることが多いと考えた。また、これからの日本にとって必要だと感じたことは、薬剤師による医療行為、薬剤師の社会的地位の確立、早期実習の実施や実習機会の増加である。制度を変えるのは今の私たちには不可能だが、いつか変えられる立場になる時までこの気持ちを無くさないようにしたいと思う。

